

高校生 古民家で野菜販売



秩父農工科学高の生徒が運営するレトロな雰囲気の店舗（12日、秩父市で）

秩父農工生運営

県立秩父農工科学高の生徒が運営する「農工チャレンジショップ」が、秩父神社の表参道にあたる番場通り（秩父市番場町）から近くの買継商通りに移転した。店名を「よりどころ」に改めて11日にオープン。古民家を利用した店舗で、生徒が育てた野菜を販売し、秩父銘仙を展示している。

買継商通りは、大正から昭和初期にかけて地域の絹織物産業が最盛期だった時期に栄えたとされる。移転先の店舗も昭和初期に機織り商の出張所として

「チャレンジショップ」移転

使われていた商家で、帳場には「電話室」が残っている貴重な建物。道を挟んだ向かいには、明治初期に創業した老舗和洋菓子店「水戸屋本店」のカフェがある。近隣の町の古い蔵を解体した古材で建てた風格ある店舗が、レトロな雰囲気を醸し出している。

「よりどころ」の店頭には、秩父の地場産業だった養蚕で使われた古民具などが並べられ、銘仙の羽織を着た生徒らが店番を務める。2階には、秩父銘仙研究家の木村和恵さんによるコレクションが展示されている。12日に来店した木村さんは、「生徒が作った野菜は安くておいしいし、秩父銘仙の素晴らしさも見てほしい」と呼びかけた。

開店は主に金曜午後で、詳しくは市産業支援課（0494・25・5208）へ。